

第9回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議



説明内容

1. 前回会議 (R3.12.23) における意見と対応

2. パブリックコメントにおける意見と対応

3. 前回会議以降の取組

4. 令和4年度の取組



1. 前回会議における意見と対応



公共空間再編整備計画(案)

- 市民に向けてしっかりとPRするために、まちづくりのキャッチフレーズのようなものを考え、それをスローガンにして、みんなで進めていけると良い。
- 公共空間再編整備計画と都市空間デザインガイドライン(参考資料 3 p24)で共に「STEP」という言葉を使用する と混乱を招く可能性がある。



参考資料 2 p12

- まちづくりシナリオの展開にあたっては、「**OPEN NUMAZU** (オープンヌマヅ) 」の考えのもと、<u>まちなかの公共空間や資源をまちにひらく</u>ことで生まれる風景を日常へとつなげ、ヒト中心のまちなかの姿を創り出していく旨を記載。
- まちづくりシナリオの「STEP」という言葉を段階を示す 「PHASE」に修正(その他の登場ページも同様)し、<u>まち</u> づくりがどの段階にあるのかを示しながら、取組を広く周 知していく。

3-1:まちづくりシナリオとは

修正箇所

- 「中心市街地まちづくり戦略」で示された中期のまちの姿の実現に向けて、どこから、どのような考え方で、沼津の中心市街地が変化していくと、まちの変化への期待感が沸き、民間との連携が進んでいくのか、その「実践する手順、施策、狙う効果」を「まちづくりシナリオ」として描き、官民で共有しなから一体となった取組を進めて行くことを目指します。
- 「まちづくりシナリオ」の展開に当たっては、まちなかの公共空間や資源をまちにひらくことで生まれる風景を、 日常へとつなげ、ヒト中心のまちなかの姿を創り出していくという"OPEN NUMAZU (オープンヌマヅ)" の考えのもと、取組を進めていきます。

まちづくりシナリオ

中期のまちの姿を実現するための戦略的な施策展開のステップ

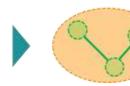
PHASE-1

PHASE-2

PHASE-3

「点」:ボテンシャルの高い場所から 目指すまちなかの風景を示す

「線」:点を街路でつなぎ、まちの 回遊性を高める



公共空間再編整備計画(案)

- まちづくりシナリオのPHASE1-2・2-1において、(都)沼津駅沼津港線に副次的に生まれる動線が通りの東側に表示されているが、仲見世商店街側からの波及を考えると、西側に表示した方が良いのではないか。
- まちづくりシナリオで示されている南北の歩行者動線の南側に中央公園があるが、中央公園は現在も目的地化されているのか、それとも今後何か改善する意向があるのか。

参考資料 2 p14·15

- 図中に示す"<u>副次的に生まれる動線</u>"を **通りの西側**に修正した。(その他の登場ページも同様)
- イベントや「週末の沼津」等の利活用 により、目的地化されてきているが、 更なる**利活用の活性化**や機能強化を図 る旨を図内に記載。



公共空間再編整備計画 (案)

• 駅前広場について、地震が発生した際の駅周辺の買い物客など、帰宅困難者の避難所についても検討してほしい。

参考資料 2 p20・22

● "計画平面図"及び"整備方策(1)歩行者 空間の拡大と利活用空間の創出"に、有 事の際の避難場所や救援活動拠点とし ての活用も見据えて、駅前広場の整備 を行う旨を記載。

「駅前広場」計画平面図 一般車乗降場から駅までの雨よけ動

向上を図る。

線を確保し、乗降場利用者の利便性

利活用広場

様々な動線が始まる場所とし からまちへの見通しに配慮し 案内機能を充実させる。

修正箇所

南口出口

各方向への動線を確保しながら、多くの人 が待ち時間などの短時間利用が可能な設え や駅前の緑陰をつくり出す。

歩行者動線を避け、建物側の地先空 間を活用し、長時間滞留可能な静的 空間とする。

有事の際における避難場所や救援活 動の拠点としての活用も見据えた設

〇整備方策

(1) 歩行者空間の拡大と利活用空間の創出

- 駅前広場内の歩道拡幅を行い、市民が気軽にたたずむこと のできる空間づくりを行います。
- 創出された空間は、滞留のみならず、まちのにぎわい創出 や有事の際の避難場所等としての活用も見据え、電気、水 道、情報通信等のインフラ整備など、多様な活動にも対応 できる空間として整備します。



図. 歩行者空間の拡大と利活用空間 の創出イメージ

(参考資料 2 p20)

公共空間再編整備計画(案)

- 沼津港には大きなにぎわいがあるので、沼津港に来る人を中心市街地に誘導できる仕組・取組を考えてもらえると良い。
- 沼津港との関係は重要であるので、沼津駅 沼津港間の自動運転バスの導入について、ぜひ実現に向けて取り組んでほしい。



参考資料 2 p33

■ 沼津版スマートシティ「X-Tech NUMAZU」の取組とも連携し、沼津駅 - 沼津港間において、マイクロモビリティ等による移動利便性の向上や自動運転の実装化などに向けて取り組む旨を記載。

(参考) 沼津版スマートシティ(「X-Tech NUMAZU」) の取組

「"ちょっと未来"を先取りしたぬまづと"私らしい"を実現するまち」を将来都市像に、鉄道高架事業を始めとするまちの基盤整備の進展と合わせながら、テクノロジーの活用によりまちなかにおいて多様なサービスの創出や既存サービスの革新を図り、市民生活の質(QOL)の向上を図る、沼津版スマートシティの取組(「X-Tech NUMAZU」)がR3.6にスタートしました。



- 産・官・学の連携による主要な取組分野として「モビリティ」や「環境・エネルギー」などが掲げられており、モビリティ分野においては、ヒトの移動の最適化の観点から、電車・バス・タクシー・シェアサイクルなどの移動手段の情報提供の一元化、駐車場の様々な交通手段との連携強化やICTを活用した機能の導入、静岡県と連携した沼津駅ー沼津港間の自動運転の実装化などに取り組んでいきます。
- 環境・エネルギー分野においては、温室効果ガスの排出削減に向けた省エネ・再生エネルギーの利活用を推進していきますが、「公共空間再編整備計画」における整備の推進に当たっては、環境負荷の低減への貢献についても意識しながら取組を進めて行きます。

修正箇所

① 民間駐車場等と連携した シェアサイクル等のポート設置可能性の検討

- 車中心からヒト中心の空間へ転換を図るうえでのスマートシティの取組として、新たな移動手段の確保により、エリア内や観光拠点である沼津港への移動利便性に資するため、マイクロモビリティの導入やシェアサイクルなどのポート設置を検討します。
- 特にフリンジ駐車場の導入や駐車場の交通連携拠点化も見据え、市内の渋滞緩和やCO2削減に寄与するとともに、駐車場からのシームレスな乗り換えによる二次交通としての活用も期待できることから、民間駐車場等と連携した設置可能性を検討します。

【事例】 (岡山市:ももちゃり)



都市空間デザインガイドライン(案)

• 商店主等が個別に取組を行い、広がっていくということよりも、社会実験等を通じてエリア・集団による取組を行い、集合的な効果を実感することで、前向きになるというプロセスの方が多いように感じる。コレクティブな、社会実験的なアプローチによってマネジメントまで繋げていくストーリーがもう少し強調されても良い。



参考資料 3 p22·23

- 実現に向けたプロセスに、空間の利活用を促進するための社会実験を通じて、**まちづくりへの参加者 の拡大や運営の組織化**なども図っていく旨を記載。
- まちづくりシナリオと連動した取組について、<u>公共空間再編整備と併せて</u>利活用に関するヒトづくり も意識した社会実験を実施しながら進めていく旨を記載。

■ (1) ヒト中心の都市空間の実現に向けたプロセス

修正箇所

まちづくりシナリオ(「公共空間再編整備計画」に掲載。概要は次頁参照)に示す沼津駅周辺の公共空間再編整備と連動したステップによる計画的・戦略的なアプローチと、試行的な取組から実践を積み重ね、 段階的に周囲へ波及させていくアプローチの両輪で進めていきます。

前者については、公共空間再編整備に向けた課題、効果等の把握と併せて空間の利活用を促進するために、目的を持って一定エリアで段階ごとに実施していく社会実験を通じて、まちなかの公共空間や資源が まちに開かれる効果をエリアで示し、社会実験を通じたまちづくりへの参加者の拡大や運営の組織化なども図りながら、ヒト中心の都市空間の実現を目指していきます。

(参考資料 3 p22)

● (参 考)まちづくりシナリオ

まちづくりシナリオは、「中心市街地まちづくり戦略」で示された中期のまちの姿の実現に向けて、どこから、どのような考え方で沼津の中心市街地が変化していくと、まちの変化への期待感が沸き、民間との連携が進んでいくのか、その「実践する手順、施策、効果」を示したものです。(詳細は「公共空間再編整備計画」参照)

シナリオのステップの進展に当たっては、下記のシナリオイメージの青色部分で示すとおり、公共空間の再編整備と併せて利活用に関するヒトづくりも意識した社会実験を段階に応じて実施しながら、取組を 進めていきます。



2. パブリックコメントにおける意見と対応

実施概要

- 市民のみなさまにご意見をいただき、計画策定にあたっての参考とするため、パブリックコメントを実施。
- 実施にあたっては、2つの計画の関係性や要点がわかるよう概要版を作成し、計画(案)とともに公開。

実施期間	令和4年2月18日(月)~令和4年3月22日(火)
閲覧場所	沼津市ホームページ、沼津市役所、市内各市民窓口事務所、市立図書館
提出者数	1名
意見数	4件





- 樹木による緑あふれるシンボルロード等のイメージが掲載されているが、樹木は、根張りによる歩行の妨げ、鳥害 の発生、普段の維持管理といった問題等が発生する。
- 樹木だけでは、シンボルロードとしては簡素な雰囲気となるため、花壇等の配置も必要となり、さらに維持管理費 用が増える可能性がある。ソーラーパネルとフラワーポットが一体となった外灯の設置により、まちなみをデザイ ンしても良いのでは。

計画の修正はなし

- シンボルロード等における樹木は緑あふれる 空間を創出することだけではなく、人々が心 地よく過ごすための木陰の創出、環境負荷低 減等の環境への配慮、公共空間利活用にあ たっての風対策も目的としており、その必要 性はあるものと考える。
- 一方でいただいたご意見のとおり、樹木を設 置することによる維持管理等における課題も 認識しており、<u>今後周辺住民や道路管理者等</u> と調整を行いながら、検討を深めていく。



計画で示すシンボルロード(駅前街路)のイメージ



- シンボルロードはもちろんだが、生活道路についても歩道幅を最低3m程度にし、歩道と車道の段差をなくした道路への改善をお願いしたい。
- 民間敷地の建物と歩道との間に最低 3 m程度、椅子やテーブル等の設置や屋外店舗としての使用が可能な公共空間 用地として確保できるような法整備をお願いしたい。



計画の修正はなし

- 各道路の性格に応じた地区交通施策の実施が必要であることから、生活道路Bのうち歩行者の主な回遊動線となる道路では、限られた歩道幅員の中で、歩道と車道を分離せず、自動車交通を抑制する工夫を施すことで、歩行者と自動車が共存できる空間の創出を図ることとしている。(参考資料 2 p32)
- 生活道路において、にぎわい等を創出するための空間を行政が確保することは難しいことから、<u>建物</u> 更新時において通りに面した民地に余白を生み出し、周辺住民の交流の場や民間活動等としての活用 を誘導する、参考資料 3 p29で示した<u>新たな制度の導入なども視野に入れながら、官民連携によって</u> <u>魅力的な空間づくり</u>を進めていく。

- 荷捌きスペースについて、歩道面に食い込んだ形での確保が提示されているが、仲見世商店街の東西通りにあるスペースでは、常に車両が駐停車されている状態が見られる。そのことによりスペース以外での荷捌きが行われ、歩きにくい道路のイメージに繋がってしまうのではないか。
- 駐車可能時間帯を設定し、それ以外の時間帯は駐停車禁止とする法整備はできないか。



計画の修正はなし

- 車線数減少を目指す駅前街路については、従来のような路肩での荷捌きは円滑な交通処理の妨げになることから、<u>歩道切り込みの荷捌きスペースの確保</u>を、<u>交通規制や路面の設えなど、一般車等の駐停車対策とあわせて検討</u>することとしている。(参考資料2p31)
- 仲見世商店街の東西道路のような生活道路については、商業者へのヒアリング等から<u>実態を把握しながら、荷捌きのルールづくりを検討</u>することとしている。(参考資料2p31)
- 提案いただいた<u>交通規制や時間帯を指定した荷捌きの実施</u>は、<u>安全で快適な歩行者空間の創出と荷捌き車両への対応の両立にあたって有効な手段となり得る</u>ことから、今後上記のような詳細な検討を進めていく際の参考とさせていただく。

• まちなかのにぎわいを創出するためには、商業施設等魅力のあるまちづくりが必要と考える。そのためには、商業施設等が出店しやすい法整備や環境づくりが必要であり、単純な住環境整備のみではなく、法律面においても検討をお願いしたい。

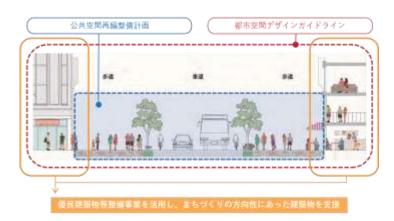
計画の修正はなし

● まちの活性化に向けては、ヒトが居心地よく過ごせる公共空間の創出だけではなく、まちなか居住を促進する施策の展開や、既存ストックを活用したリノベーションによる魅力的な店舗の進出支援、既存店舗のリブランディングによる魅力向上等に引き続き取り組むとともに、一定の要件を満たす優良な建築物整備への支援なども検討していく。(参考資料3p29)

優良建築物等整備事業

民間の建築活動を適切に誘導し、良好な市街地環境の形成を図 るため、一定の要件を満たす優良な建築物等の整備に対して補助 を行う制度です。

自治体が目指すまちづくりの方向性を視野に入れながら、民間 の発意による市街地再生への取組を支援することが可能になりま す。現在、沼津市中心市街地まちづくり戦略の方向性に基づく、 沼津市ならではの制度導入に向けて、検討を行っています。





3. 前回会議以降の取組



VR動画



目指す中期のまちなかの姿

- これまでもVR動画を作成し、本市が目指す中期のまちなかの姿の周知等に活用してきたが、今回、公共空間再編整備計画や都市空間デザインガイドラインの考え方を踏まえアップデートを行った。
- このVR動画も活用しながら、引き続き本市が進める中心市街地のまちづくりを広く発信していく。



審議会・沼津まちなかデザイン会議



開催概要

【審議会】

都市計画や景観の観点から意見を伺うため、本市の都市計画審議会及び景観審議会において計画案に対する意見聴 取を行った。

- 令和 4 年 1 月 31日 **沼津市都市計画審議会** (書面開催) 令和 4 年 2 月 21日 **沼津市景観審議会**

【沼津まちなかデザイン会議】

まちづくり戦略に基づいて本市が目指すまちなかのイメージ等を周知するとともに、全国のまちづくりで活躍する ゲストや沼津でまちづくりに取り組む地域のプレーヤーを招き、<u>今後の沼津のまちなかの姿について考えるきっかけ</u> の場とするため、「沼津まちなかデザイン会議」を開催。

- 令和 4 年 1 月 25日 **まちなかデザイン会議Vol. 3**
 - 参加者数:40名(オンライン)
- 令和 4 年 3 月 29日 **まちなかデザイン会議Vol. 4**

参加者数:26名(オンライン)







PLAYER: Team OPEN NUMAZU

: SOCI 代表 / 大木真宝: daitai GRaPHIC 代表 他

GUEST: 西尾京介氏 株式会社ユニークエディションズ代表

Theme

『市民や民間が主導する、沼津のまちづくり』

Theme

『社会実験を活かした沼津のまちづくり』

OPEN NUMAZU(社会実験)



実施概要

• 中心市街地まちづくり戦略で位置付けた「<u>ヒト中心の公共空間の創出</u>」を目指し、<u>まちづくりシナリオで示す</u> <u>PHASE 1-1</u> (参考資料 2 p14) として、(都) 三枚橋錦町線(イーラde南側)で社会実験を実施中。

NOPEN! NUMAZU 2022 STREET

公共空間再編整備計画で示した「OPEN NUMAZU」の名のもとに、まちなかの公共空間を広く開いて活用することとあわせて、人の気持ちもまちに開いていくために、"あったらいいな"と思える日常の風景や居心地の良い空間づくりを行う社会実験。

【期 間】

令和4年4月6日(水)~4月27日(水)

【内容】

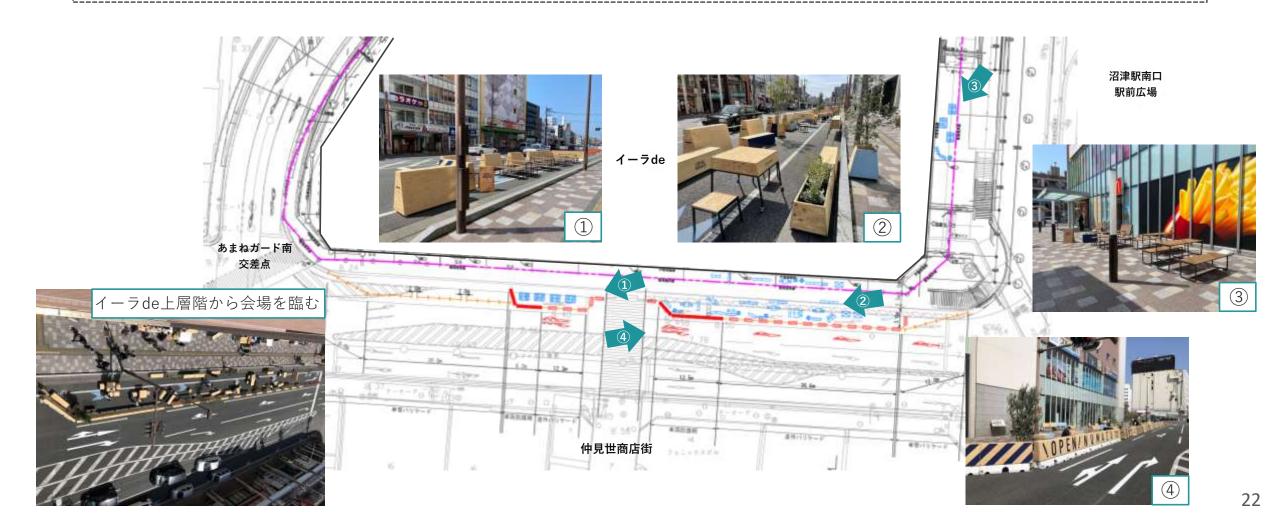
- 誰でも自由に使えるイス・テーブル等を造作し、 <u>統一されたデザインのもと</u>、**くつろぎ空間を創出**。
- <u>居心地よく過ごすための付随コンテンツ</u>として、 日常に寄り添った**店舗の出店**を実施。

【目的】

- 駅前街路の再編(車線数減少)による**周辺交通への影響確認**
- 街路空間の新たな使い方を試行し、**来訪者の行動変容を把握**
- 周辺事業者の公共空間利活用に対する機運及び市民のまちの 変化に対する期待の醸成
- 日常的な公共空間の利活用に向けた**課題・問題点の把握**
 - → 上記を検証するための各種調査を実施

実施計画

- ・ 南口駅前広場への左折車線を歩行者空間へと転換し、イス・テーブルの設置や出店等を行うことで、<u>まちなかで居</u> <u>心地よく日常を過ごすことができる空間づくり</u>を実施。
- 交通規制やイス・テーブル等の設置は期間中実施したままとするが、空間を利活用できる時間は8時~20時に設定。



情報発信

• OPEN NUMAZUの取組を広く周知し、多くの方に公共空間(まちなか)で過ごす日常を体感していただけるよう、 様々なツールを用いて情報発信を実施。

オープニング&プレスリリース



市長はじめ、関係 者が出席のうえ、 オープニングを実 施。多くのテレビ 局・新聞社に報道 していただいた。

専用SNSアカウント



Facebookアカウン トを開設し、会場 の様子や空間の使 われ方などを随時 投稿。

ローカルメディア



リノベーションス クールから誕生し たローカルメディ ア"ぬまつー"さん のご協力のもと、 会場の様子等を発 信する記事を掲載。

SNS・新聞広告



幅広く周知を図るため、SNSや新聞にOPEN NUMAZU実施の広告を掲載。



ポスター・フライヤー



地元デザイナーさんのご協力のもと、ポスター・フライヤーを作成し、各地に配布・掲示。

Instagram,



デジタルサイネージ



バスの利用環境向上のために設置した南口駅前のデジタルサイネージに開催案内を掲載。







学校帰りの学生、仕事終わりの社会人、お子様連れのお母さん、年配の方…時間帯によって様々な世代の日常の一部に。









家族の団欒、子ども達の笑顔、ペットとのくつろぎ、友達と写真…これまでのまちなかに見られなかった豊かな風景が。









読書、勉強、リモートワーク、店員さんとのコミュニケーション…いつもの日常がまちなかのオープンエアで。









「久しぶり」。通過するだけの空間では生まれなかった出会いが、滞在できる空間になったことで。





来場者の声

• OPEN NUMAZUで過ごしていただいた方の声を活かしながら、このような風景を日常へとつなげていくため、アンケート調査を実施。

良かった点等

- 駅前に人が集まりやすくなる良い取組で、<u>1日のQOLが上がる</u>ものだと思う。持ち込みOKにより、<u>周りの飲食店のテイクアウト利用も推進できている。(20代学生)</u>
- 過ごしやすい季節なので<u>外での飲食はとても楽しく、コロナ</u> 過でも安心して利用できると感じた。(20代無職)
- <u>久しぶりに家族と</u>外でランチができ楽しかった。<u>木の家具や</u>植物が良い雰囲気だった。(30代公務員)
- ラブライブの観光で訪れたが、このような取組があると<u>ラブライブに関係なく沼津という場所を楽しめる</u>ので素敵だと思う。また沼津に来たくなった。(30代会社員)
- <u>沼津駅周辺に行く機会が減っていたが</u>、このような取組が増 えると行ってみようかと思えるようになる。(50代主婦)
- 車道があっても街のにぎわいには寄与しないので、<u>座れる場所をつくるのは良い企画</u>であると思った。(50代会社員)
- 出店しているお店も、空間利用もとても良い。天候に左右されやすいが、そういうものだと割り切って利用するくらいの緩さが良いのではないかと思う。(50代契約社員)

改善点等

- 雨を避けることができる簡易的な屋根のようなものがあると 良い。(10代学生)
- 私自身もおもしろい取組だと思えたので、地域の学生も参加できるようになると良い。(20代学生)
- パラソルなどの<u>日差しを遮るものが欲しい</u>。日光が強い日 だったので、長時間の滞在は難しかった。(30代会社員)
- <u>Wi-Fi</u>があるとより活用の幅が広がると感じた。(40代会社員)
- 車の通りがやや気になるので、車道との境に草花や樹木など をある程度の高さを出して設置し、空間を区切ることができ れば、よりくつろげるかと思う。(50代主婦)
- 自転車が車道を走行しづらくなっている。(市役所にTEL)
- <u>車が横付けできなく</u>なり、迷惑である。(市役所にTEL)

風の影響

- <u>イスやテーブルなどの什器</u>は、風による影響も鑑み造作等を行ったことから、<u>問題なく運営</u>できている。
- <u>出店位置</u>については、オープニング日は車道空間で行ったが、この日時折見られた強風が販売等に支障をきたした ことから、<u>イーラde建物側に変更</u>した。
 - → オープニング時と同等かそれ以上の風が吹いた日があったが、車道空間と比べ、出店に著しい影響を及ぼすことはなかった。
 - → 空間としては強い風が吹くことがある場所であっても、<u>風の影響を最小限に抑えることができる</u>イーラde南側の地 先(セットバック)空間は<u>出店等の利活用のポテンシャルはある</u>と思われる。
- <u>風速が7~8m/sの予報</u>となると、購入した物を押さえながら飲食している様子が見られ、<u>心地よく過ごすのが難し</u> い状況であった。(期間中2日間程度)
- ・実験開始前は風の影響が懸念される場所であったが、**空間の設えを工夫し、風の動向を注視ながら利活用すること** で、居心地の良い空間づくりは可能であると考えられる。



位置変更







4. 令和4年度の取組



令和4年度の取組(予定)

• 「公共空間再編整備計画」・「都市空間デザインガイドライン」に基づき、まちづくりシナリオの<u>"PHASE 1-2"</u> (参考資料 2 p14) の取組の推進及び"PHASE 2-1"(参考資料 2 p15) 実施に向けた検討を進めていく。

【PHASE1-2の取組推進】

- 仲見世商店街周辺で、デザインガイドラインに示すActivityの試行的な取組を実施。
 - → OPEN NUMAZUで使用した什器を用いて、滞留空間の創出など、地先空間の活用を実践。

【PHASE2-1実施に向けた検討】

- OPEN NUMAZUの結果を踏まえた、 (都)三枚橋錦町西側区間の整備 方針・整備手法等を検討。
- 一般車乗降場の社会実験実施に向けた実施手法の検討や関係者との調整を実施。



